

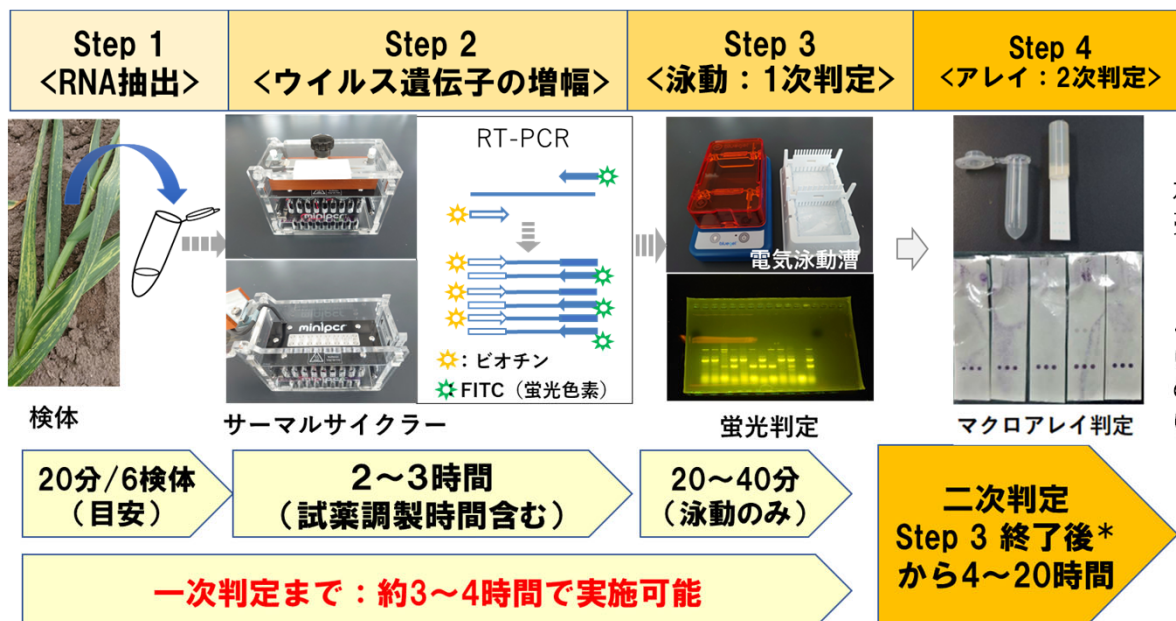
本当はこんなに大きくなる道産にんにく！ ～新検査法と防虫ネットでウイルスから守る～

概要 Abstract

ウイルスフリー種苗生産に不可欠なウイルス検査法および種苗増殖中におけるアブラムシ媒介ウイルスの再感染回避技術の確立を目指しました。

成果 Results

道内に発生する重要なにんにくのウイルス2種と1属を高感度・短時間で同時検出が可能で、種苗のウイルス検査に利用する新検査法（FDA法）を確立しました。また、防虫ネットによる被覆栽培は、種苗増殖中のウイルス再感染対策として効果が高いことを明らかにしました。

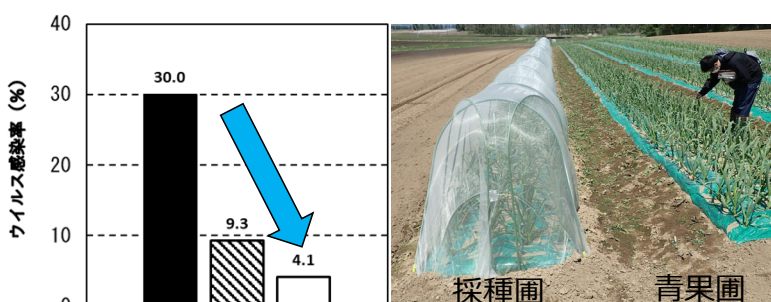


※一次判定用キットはホクサン（株）より販売予定です。

二次判定用マクロアレイはホクサン（株）より受注生産、あるいは同社による二次判定の受託診断を予定しています。

※擬陽性（陽性・陰性判定に迷うケース）時に、Step3で泳動した残余を用いて2次判定を実施

図 FDA法による診断（診断フローと作業時間）



■ 無被覆 □ 被覆 (6/1～) □ 被覆 (融雪後4/6～)

図 防虫ネット(目合0.8mm)被覆によるウイルス再感染への防止効果(左)と現地の先行事例(右)



平均一球重68.0g、球径6.4cm 平均一球重100.9g、球径7.3cm

図 ウイルスフリー化による効果（ピンク種）

普及 Dissemination

- 1) FDA法は、ウイルスフリー化事業者および種苗生産団体（JA・農業生産法人）によるウイルス検査に活用します。
- 2) 防虫ネットによる被覆栽培は、ウイルスフリー種苗の生産および生産者による採種栽培にウイルス再感染対策として活用します。

・本研究は北海道大学ならびにホクサン（株）との共同研究で実施しました。

連絡先 Contact

花・野菜技術センター
研究部 生産技術グループ
0125-28-2800
hanayasai-agri@hro.or.jp